

経済ポケット ジャーナル



★貿易記念日記念祝典

および講演会開かれる

神戸港が開港して今年で百十年。貿易が再開して三十年。神戸港は貿易港として栄え、神戸の街の発展に大きく貢献してきた。去る六月二十八日は貿易記念日。この日「第十六回貿易記念日祝典講演会」が神戸商工会議所第三会議室で開かれた。

務大臣の祝辞披露のあと、佐橋滋氏（財団法人余暇開発センター理事長）が「産業人と余暇活動」と題して記念講演を行った。余暇こそが人間の生きがいではないだろうかと主張する佐橋氏は、この講演で「人間だけが出来るものを創ること、その喜びが大切。さらには余暇と仕事が一になることが最もだ」と話した。

★二十三回を迎える

「神戸貿易デザイン展」

輸出入の低迷を打開し、また国内販路の開拓を図り、あわせて多数のデザイナーの試作品および海外の優秀商品を別のコーナーに展示して、デザインに対する一般の理解と関心を深め、商品の向上を目的として開催される。また、特に優秀な商品にはコウベグッドデザイン賞が授与される。

お問い合わせ／神戸貿易サービスセンター（神戸商工会議所ビル6F 電話251-2911）

★ナガサワ文具センター

多彩な商品構成を披露

創立九〇周年を迎えたナガサワ文具センターでは、去る六月二十九日から三日間（印象たいせつに、一本のボールペンも企業の顔になります）と販売促進ギフト、ノベルティ用品を集めて第一回SPN展（Sales Promotion Novelty Fair）



商談も成立、第1回SPN展

をセンタープラザ11F展示室で開催した。

文具に限らず、事務用品、アイデア商品などを展示して、文具だけの店というイメージを脱却を計り、実際に訪れた人たちの多彩な商品構成を再認識。デモンストレーションとしての成果があがった。ちなみに最近ではノベルティ商品として計算機が最も利用されているとのことだった。

神戸に演劇の土壌づくりを

●高校演劇全国大会、今年は神戸で！

座談会

出席者

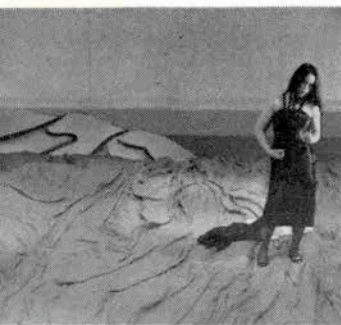


荒本孝一さん
＜摩耶兵庫高校教諭＞

★市民演劇祭で飛躍！

荒本 高校演劇の全国大会が、全国高等学校総合文化祭の一環として、今年は神戸で開かれるんです。松尾 演劇が核ですね。高校生の芸術文化活動の全国大会は昨年の千葉大会に続いて二回目です。昨年は急遽決ったので、実質第一回ということで、兵庫県が芸術文化

ルにて
由美子（男）割鞘智之



代表が出ていない。夏の高校野球と同じで全国二千校の中から十一校が選ばれて出場権を持つのですが、県立兵庫高校が惜しかった。

荒本 浅川君がもうちよつと早く脚本を書いていたら出ていたよ。すごくいい戯曲でね、きつと出るであろうと信用していたら落ちてくれた。(笑)

浅川 取り組むのが遅かったんです。僕等の世代とはどういう世代かということ、高校演劇の原点だと思ひますので書いたのですが。荒本 彼等が育ち、こういう形で集まるようになったのは、市民演劇祭だと思ひます。昭和五十年が第一回ですが、たまたまアンコ(小倉啓子さんの愛称)の妹さんの結婚式にアンコの恩師松井文雄と今のご主人夏目俊二が飲んでいて

「ともづな」(市民文芸集)に戯曲をのせるだけではダメだ。在神の団体で演りたい。高校演劇もノツたらどうか」ということになり「それじゃ」は選ばせてもらったのが、当時神戸大学の学生だった吉川ヨコさんの「風景」です。

松尾 そのときの市民演劇祭への第一回参加者が神崎さんですね。

神崎 ええ、一年生で照明を担当しました。第二回めの作品は松尾先生の「RS-378-1106-5896TP」そのときは舞台監督でした。



神崎由美子さん
＜葦合高校卒業生＞



浅川斗志夫君
＜兵庫高校三年生＞



小倉啓子さん
＜劇団神戸女優＞

荒本 第二回はできるだけ多く出そうとしてダブルキャストにしたんですよ。十三校が集ってきた。

松尾 第一回市民演劇祭に出て「風景」のときは緊張してましたね

神崎 ほんとこわかった。あの雰囲気。荒本先生の演出だし(笑)

小倉 すごい熱意でした。先生方と会えばその話ばかりでね。市民演劇祭に参加すれば観る範囲が広がりますからね。

松尾 暮れは三十日、正月は四日

からあれだけ厳しい練習を学校ではよう耐えて行かんが、いい演出をしてもらえる一心で耐えていた小松 それだけみんな力になっていくわね。そして各学校に帰って力強い作品に昇華させていくのね荒本 そう。市民演劇祭で持ち帰ったものを各学校の演劇部に植えつける。神崎なんか、そのまま卒業してしてもケシカラン(笑)

小松 三回めが荒本先生の「膿れた陽は砂の上に」。

松尾 あれは凄い。ロックを材料にして不毛の社会を描いたもの、横山次生先生の演出も凄かった。テアトロの五十二年五月号に劇評が載りましたね。

浅川 必須クラブで演劇部に入っていて、田中可志子先生に、演ってみないかといわれて、自信もって市民演劇祭に参加したけど、自信などたちまち消え失せて、さんさんなめに会いました。(笑)

松尾 森秀人さんに絞られたね。

荒本 ところが彼は熱心でね。いわれたことを全部脚本に書き込んでね。あれにはびっくりした。浅川 だけどそれが成果には表われなかったですね(笑)

★現代高校生はフィードバック的

荒本 神戸市内の高校演劇部が初めて一堂に会したのは三十一年、山手学園で合同発表会をやったこ

とです。アンコも今じや伝説的存在になりつつある。(笑)

小松 小倉さんたちの時代は、リアルなものを自分たちで消化して着実に作りあげる、いわば納得づくりの芝居づくりだったけど、今は感覚的というかフィリングを求めて歌ありドラマあり演奏ありというミュージカル風のが好まれて、演ってる自分たちが楽しんでるみたいな気がするんだけど。

松尾 練習を見てても、友だちとしゃべっていて自分の出番がくるとスツと出て行って演ってる。あんなにうまく切り変わるんですね浅川 僕らが芝居するとき、時間をかけ、腰をすえてジックリというより、「こはこんな感じで」というのがあると思いますね。端から見れば気軽な気持で演ってるみたいだけど僕らの方にしてみればある程度譲歩してアピールしようと努力はしてるんですが……。

神崎 私も高校時代、リアルなものを演るか、流行のフィリング的で現代的な風刺劇を演るか、バカみたいに議論しましたよ。結局、古典も演ったしフィリング的なものも演ったんです。

小松 そのフィリング的なものは若い人たちの何かを作ろうとするエネルギーの固まりのようなもので、わかるのだけれども、今度私は私たちの方が感覚的についてい

けない。

松尾 我々が大そうに考えてることを彼らはスツとやってしまう。

小松 そうなの。そういうセンスを初めからもってるのね。マスコミ的なものも含めて、現代の多くの若者が一様を持っている。

浅川 最近の若い人は悪い傾向になりよんと違うかなと僕は思う。

感覚、感覚といってイイ所もたくさんあるだろうけど感覚的でも役者が演ってるときにしゃべっているというのは芝居に対する姿勢としてどうかと思います。感覚的でありながらじつくり腰を落ち着けて演っていく体勢にならないと。

松尾 全国的な規模でみたら、若い人と古い人、というのでなく地方の高校と都会の高校とでは芝居の作り方が違うんですよ。東北や九州、いわゆる地方の高校では何年でも同じことを繰り返して演ってるから上手下手に関係なくとても厚みを感じますね。ところが都会の場合はひと月、ふた月でつくってしまふ。洗練されて、きれいにつくってるけど迫力が無い。そういう地方性の違いはありますよね小倉 劇団神戸でも研究所をしますでしよ。福島聰君たちは高校演劇出身で人材としては優秀ですよ。瞬発力はあるんですが、持続性がないように思えるんです。彼らにしてみれば一生懸命で、それ

はよくわかるんだけど楽しみで演ってるんですね。やはり根を生やして神戸の地における仕事として演劇を見て欲しい。例えば研究所の女の子にどの位続けるの?という意味の質問をしたら、自分ではすごく演劇が好きで熱心に通ってるのに「さあ?」という返事が返ってくるんです。要するに半年間が自分で保証できないんですね小松 何でもいから、何かに集中したい、という若者の心理があるような気がします……。ある目的のために演劇をするのでなく、その瞬間燃えればいいというか、だからものすごくエネルギーッシュですよ。この前ある芝居でクロス役を募集したら一日に三十名近い応募者があつたそうでそんなに演劇を志す人がいるのかと思つたら、そうじゃなくて「たとえひとときでも何かをやってみたい」という若者が多いということを知って、ソレだな!と思つたんです。

神崎 今聞いてて、ズキンときたんですけど、私もどの位続けるか質問されたら「さあ?」と答えると思いますね。それは、今が燃えればいいのであって、先のことはまたそのとき決めればいいと……小倉 私も始めの頃はそうでした今聞いてるとまどろこしくってね浅川 僕たちにはいい傾向と悪い傾向があつて、いい方に伸びてい

けばいいんだけど……。

荒本 時代が変ったんじゃなくて誰しもそういう時期というのがあるんじゃないかね。

★生活の中に芝居を観る楽しさを

小松 神戸の演劇が育つ土壌がもつと創られてもよいのでは？

小倉 優秀な人材がでてきてるけど、まだ少ない。それにせっかく高校演劇を三年間演りながら卒業してブツリというのは残念だわ
神崎 私は今、お勤めしていて演劇の方はやめてます。やはり両立が難しいように思えて。

松尾 演劇は観客が育ててくれるものだと思いますよ。

荒本 だから昔の方が土壌はあった。例えば昔は芝居で生活できてたけど今はなかなかできない。

松尾 芝居を観に行つて大人が楽しむというのが土壌なんでしょう
大人が楽しめる芝居であることはもちろんですが、その芝居を大人がもつと観に行けば高校演劇も伸びてくるでしょう。神戸のことを描いた作品やから皆観に行くかといえそうですが、シンдой所で仕事してるな、思うときがある
浅川 僕ら高校生にしても、あまり芝居観に行かへん。映画の方がおもしろいかいいうてね。だからおもしろい芝居をつくって欲しい
荒本 小劇場公演が成り立たない

わずかに道化座の「のいえのいえ」だけ。東京で出来るのになぜ神戸で出来ないのか、一つには芝居が幼いからですね。

小倉 私は大人の芝居をつくることではないと思うんです。それを考えるとさっきいったように、五年先のメドが立たないんです。要するに今育つてきつたある人たちの

人数なり能力なりが向上するということがはつきりいえないんです
荒本 市民演劇祭で育つた連中が神戸ですつと続けてがんばつてくれたら東京に負けへん思うが。

小松 その刹那刹那の意識がプロ意識につながってないのね。トコトンやる気迫と本物を自覚することが必要ですね。

荒本 何も徹する必要はないと思うけど、自分のひとつの目的として演劇を続けていけばそれが土壌になっていくんですよ。

小倉 生活の一部分として溶け込んで欲しいですね。

小松 教科の中に演劇をとり入れたら、という声もあるんですが、要するに小さい頃からの生活と感覚が大切ですね。母親がテレビを見れば子供も見ると……。

神崎 演劇だけに限らず、音楽、映画etc.とにかく出かけて行って観ることに対する楽しみがもつと普及しないと……。

荒本 かつては歌舞伎など子供の

頃から観て楽しんで、日常だった
松尾 大衆性があつたんですね。

高校演劇の最大の欠点は、現在の高校生がこれ程重いテーマをかかえてるのかと思う位の芝居をつくってる。全国大会なんて特に。あれは高校演劇の構造的欠陥だと思えますね。観る方もシンдой。

浅川 コンクールには審査員がいて「テーマは？」なんて聞かれる要するにそんなものを求めてらっしゃるのでしょうか。

神崎 主題は何か、訴えるのは何か、突っ込まれるから一番にそれを考えましたね。

浅川 コンクールで僕ら高校生の意見は反映されないんでしょうか
小松 コンクール形式の一番の問題点がそれやね。

浅川 審査員は片書きのあるエライ先生ばかり。僕たちの意見もと入れて欲しいと思います。

小松 そこにいる観客が楽しんでイイなと思ったのが入賞すればもつと拡がりがでてくると思う。

荒本 会場の拍手の波で良し悪しがわかりますね。

松尾 全国大会までいけば一位なんて決まなくていいんですよ。

小倉 全国大会の演劇祭でいい。
荒本 そうですよ。そして高校演劇OB、OGたちが集り、がんばつて神戸に演劇の土壌を育てる努力をしないとイケないですね。



水谷 穎介さん

<都市計画設計研究所所長>

神戸の家具 新しい芽ばえに

家具インテリア室内器材の総合展を

★家具の目的性、趣向性が重要

水谷 家具ってのは大きく三つに分けられるんです。まずひとつは実用性。次に確かに家具を使っているんだけど、今のままでいいのかわかって問題。例えば子供の学校の家具なんかそうだと思うんですけど、昔は固い机や椅子だったけど、そういうのが必ずしも好ましくないということになって、パイプとベニヤを使うようになって、また事務用機はスチールになったりしているんですけど、どうもそういうことで本当にいいのかわかってことですね。もう少し本来のそれぞれがもっている点からいけば、もう一度基本的なことから考え直さないといけないのではないかと、目的をもう一度検討する必要があるということですね。単なる実用性じゃなくて、ものを考えるとなればやっぱり木の方がいいんじゃないかって問題ですね。それから最後に、趣向性というか趣向性というか、人によってちがいますけど、建築家仲間だったらヨーロッパのいいデザイナーの家具をコレクション的に集めたり、新しいデザインではなくても個性的なものを欲しがっているのね。

永田 日本における家具の歴史は学校や会社で使うものではなくて家庭で使う家具の場合、戦後のも

のです。実用性の面からの発展だけで、趣味趣向はなおざりにしてきたけれど、これからは個人的な趣味趣向にあうような、家具屋もそれぞれの個性をもったものを作っていくかといかないという考えはもってますね。

吉田(稔) 趣味性、趣向性の問題でいい例があるんです。というのは、私の絵描き仲間の息子さんが、まだ所帯をもっていない若い人ですけど、ボーナス二回分をつぎ込んで八十万円の机を買ったんです。何でそんなもん買ったんかと親父さんは怒ったけど、学校生活では無味乾燥な机でしか勉強できなかったんで、自分で稼ぐようになったから、その机に座っておれば自分が思うことを書いたり、いろんなことがその机でできる。そんなものが欲しかった、心の支えやといっているんですね。そういう考えの若い人もいます。若い人がそれだけのお金をかけてでも、ということと、それを仲間に話したらやっぱり同感してくれたということですね。やっぱり彼ら給食が嫌やったと思うんです。(笑) 落としてもこわれないようなもので育ってきてるわけで、だからそれに対する見直しですね、原点を見直すような。

永田 画一性に対する反発が確かにありますね。



羽場 光廣さん

<人船専務>



高野 敬朗さん

<神戸家具社長>



吉田 俊夫さん

<メープル不二屋社長>



永田良一郎さん

<永田良介商店社長>



高月 昭子さん

<建築家・計画工房DNA>



吉田 稔郎さん

<アーティスト>

水谷 確かに高いものを買いたい
ということ、お金がなくても、
安いものなら安いものなりに自分
の本当に欲しいもの、一生大事に
したいものが欲しいということだ
すよね。

高野 家具というものは必ずしも
部屋にマッチした大きさのもので
なければならぬということには関
係ないみたいですよ、好きな人
には。(笑)

羽場 さつき水谷さんがおっしゃ
た学校のスチールの机や椅子とか
ね。別注で木製の家具を使ってる
ところもあるんですよ。例えば
甲南学園がそうで、昔作ったのを
今でも直しながら使ってますよ。
吉田(俊) やはり私学ではそうい
うところがあるんですか。

永田 頤栄幼稚園の椅子も木製で
今も作ってますよ。

水谷 私学ならそういった椅子を
使えるけど、公立の学校ではでき
ないんですね。それと同じ意味
でビジネス家具でも役所はスチー
ルの既成品家具をメーカーから入
札しないと買えないかもしれない
けれど、個性をもった企業なら自
分の会社の性格に合った家具を使
うという方向に行くべきですね。

吉田(稔) 学校の椅子の話では
ね、アメリカの田舎の学校のこと
ですけど、卒業生が次の新入生の
ために椅子を一脚ずつ作って卒業

するんですね。自分たちはそれま
で使ってきた椅子を持って卒業す
るんです。

吉田(俊) それもいい方法ね。

★財産として残る家具を

高月 よく住宅の設計をするんで
すが、その時一番問題になるの
が、作りつけの家具にするか、家
具として買うべきかの選択なん
です。これは新しい家具に替えま
しょうとか、これは作りつけにし
ましようとか私たちはアドヴァイス
するんですけど、今まで使ってた
家具を捨て切れないんですよ。

それは安い家具でも長い間使っ
てきた愛着ともしたいのだからと
いうことなんですけど、やっぱり家
具が丈夫すぎるんですね。(笑)
だから家具を買う時はよほど考
えて買わなければいけないという反
省の時期にきているんじゃないか
なって気がしますね。そうなる
と家具の質が問われてきますね。

で、ヨーロッパのように消耗家
具的なものは作りつけにして、代
々残せるぐらいのものを家具とし
てちゃんとしたものを買って、孫
子の代まで残そうという意識にど
うやらなってきたような気がする
んですね。

永田 神戸の家具は孫子の代まで
遺産相続になるようなものでな
かったらいけないと思ってます。

高月 例えば婚礼家具ですけど、今の生活のパターンからいくとほとんど合わないんです。みんな失敗したと思ってるんですね。ところがこれこそ捨てるわけにはいかない。(笑)

永田 婚礼家具ってのはね、日本の家具の発展を助けてるけどね。阻害してる面もあるわけですよ。というのはね、親が買うからか、自分のものという意識がなくて、粗末に扱うか、部屋の狭さもあって充分に使えてないのが現状ですね。しかし親の気持ちからいうと買ってやりたいもんです。

高野 婚礼家具を売る立場からいえばね、絶対になかったらすまんですよ。(笑) 使ってないといつても、嫁入りに持っていく着物を入れたりするのでもけっこう収納スペースもいりますしね。

高月 だけでも昔のように家があるって、そこに持っていく婚礼家具ということではなくて、これからどうなるかわからないという世代にね、やっぱり婚礼家具というものが、今までのパターンでない形でね、別の形で財産としての家具が生まれてこないとおかしい。水谷 そうなると本当は家具はいらないね。

高月 結婚して道具をもっていって生活を始めてみればやっぱりもう少しちがう考え方をして選んで

くれば良かったという思いをもってる人が多いみたいね。

吉田(稔) 若い人には選ぶのはむずかしいでしょ。

永田 だけど最近では若い人たちの意志の方が強くなってきているのが事実ですよ。

高野 現実にお客さんもね、お嬢さん方は壁一面のいわゆるユニツト家具を選ぶんですけど、親の方は昔のような家具でないと気に入らないんですね。何か嫁入りらしく感じないらしい。

高月 ある意味では財産として残る家具を持ついいチャンスですね。それこそ子供に残していく家具を選ぶね。

水谷 今はそうでしょうけど、これは変化していくでしょうね。だいたいそんなもの持っていけるような家に住める人もいなくなる。

★住宅関連産業の展示会を

水谷 家具の場合実用性というところでいけば、家具に限らないけれどカタログで勝負ができるという体制になっているわけですよ。建築の場も正直にいうとそうなってるんです。建築の場合でも実際にはカタログで設計している人が90%なんです。ほんとうに素材なり実物を見てやっている人はいないんです。だけどそれはおかしいことであってね、家具でも実物を見て

これなら欲しいというふうにならないといけないし、家具の場合はそれができますよね。

吉田(稔) 例えば椅子の場合、とにかく座ってみないとわからないでしょ。カタログだけでは買えない。ところがおかしいことに商品に触れないで下さいつて書いてある。(笑)

高月 家具ってものは長い時間かけて使ってみないとわからないし永田 椅子の場合はね、個人的なプロポーシヨンのちがいはありませんけど、やはり日本人的プロポーシヨンにあわせた椅子を家具屋の方もやってるわけなんです。少なくとも輸入物にとびつのはどうも解けませんね。全然プロポーシヨンがちがうからあうはずがないのにね。

高野 イタリアの椅子は比較的日本人の寸法にあいますね。

高月 日本人的な椅子が必要ね。

永田 そう。ところがそれを発展していくと、初めに水谷さんがいったように家具のない、タタミの方がいいということになってくる。(笑) 私は学生時代から机と椅子という勉強したことない。ずっと座机や。

吉田(俊) それはちがいますよ。私、今みたいにこうやってタタミに座つてるともう足がしびれて……(笑)

永田 若いからや。あと十年もしたらこうやって座ってる方が楽やいいだすって。(笑)

高野 僕もここ一年ほどベッドを使ってみたけど、どうもいかん。

吉田(俊) そりゃあベッドの方がいいよ。家具屋が何をいつてる。

(笑)

吉田(稔) 初めに話した八十万円の机を買った人のことですけどその机をさがすのに一年かかってるんですね。デパートに行くところの程度はわかるけど、いいのは他にないかと休みのたびにさがし歩いてるんですよ。展示会でもあればいいですけれどね。

永田 大量生産のものは展示会でも開かないと小売店にもわかってもらえないからするけど、神戸の家具は大量生産して何百点もの注文を一度にとるわけではなし、ほとんどがお客さんの要望で作ってるから、展示会となるとウチはこんなのできるんだというひとつのデモンストレーションみたいな展示会になってしまいうんですね。

羽場 それもあっていいとは思いますが。

吉田(稔) 認識を高めるとい主旨の展示会ができればと思いますね。というのは八月に国立国際美術館で椅子の展覧会があるんです。主旨はドイツの椅子とイタリ

アの椅子とのちがいをさぐるという、デザイン上の問題でしようけどね、そういうことを国立の美術館がとりあげてやるわけなんです。永田 芸術家が発想したものを木工団地で手分けて作って展示会でも開いたらどうかという案が以前にでてましたね。

水谷 それも設計者や消費者も参加しないと意味がないです。例えば木工団地で実際に作るところを消費者にみせるとかね。

羽場 展示会をやれば効果が大きいでしょうね。

高野 木工団地が中心になって呼びかけてやればいい。ただそれだけが勝手に提出すると非常に無責任なものが出てきますからね。

吉田(俊) それではまたバラバラになってしまおう。

高野 いろいろなデザイナーや芸術家などのアイデアを分担してやればかなりおもしろいものができると思いますね。

水谷 そうですよ、例えば民芸的伝統的なパートとか、ニューデザインのパートとか、いくつかのテーマを決めてそれぞれに対して参加していくという仕組みをとればね。

羽場 賞を出せばまたおもしろいでしょうね。

水谷 デザインなりで勝負しようということが神戸の街では育っていないのが決定的です。デザ

イナー的志向っていうか、いいものを作ろうという姿勢が神戸には欠けてますね。いいものを作ろうというチームワークがない。神戸ではやってないけど、デザイナーが中心になって作ってる側と消費者側とをつなぐようなデザイン運動をやってる都市がいくつかあるんですよ。神戸ももうそろそろやつてもいいんじゃないかなって気がしますね。九州のデザインコンテストを最近みましたけど、かなりレベルも高く、なかなかたいしたものです。竹製品なんでものごく立派なのが出てますね。しかも地場産業のなから毎年新しくいい製品がどんどん出てきてますね。蓄積の効果があがってきた感じです。

永田 家具だけでなく、裝飾組合なんかと一緒にやればいい。

水谷 神戸の場合住宅関連産業にいい会社がたくさんあるんだけどね、そのチームワークがないんですよ。みんなバラバラで商売してる。もつともつとお互いのもってるものが寄りあえば、神戸生活

デザインがもう少しできると思

う。

吉田(稔) 非常におもしろいものができるという気がしますね。そこで新しい神戸の家具の芽ばえみたいな、起爆剤にでもなればいいですね。

△お可川にて▽

ハイセンスの紳士服で
最高のおしやれを



三恵洋服店

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290

●福祉時代の幕開けです。あなたも一冊どうぞ！
欧米の心身障害者を訪ねて

世界の福祉施設

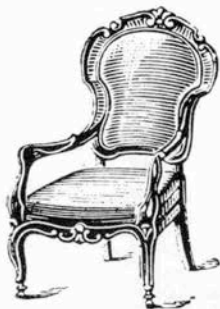
橋本 明著 〆社団法人家庭養護促進協会事務局長〆

〆カラーページ、本文三二〇ページ、定価 一〇〇〇円〆 送料二〇〇円

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。

神戸市生田区東町一・二三の一 大神ビル七階 ☎(三三二)二二四六

振替口座 神戸四五一九六



神戸のオリジナルな この家具・この一品

伊藤家具店

神戸市生田区北長狭通二一九一

電話三三一一〇四三二

★木彫り家具

合板のデザインばかりが優先する最近の家具だが「うちの家具の特徴はまず丈夫なこと」という伊藤藤さん兄弟。ほとんどが檜を材料につくられている。鏡台の上やたすの扉に浮き彫りされる花の彫刻、扉の周囲の四角い飾り彫刻と丁寧な木彫り細工が伊藤家具の手作り家具の暖か味を出している。四角形の連続模様は今でも伊藤さん兄弟の手によるという。



木彫り装飾のあるたんす、鏡台。

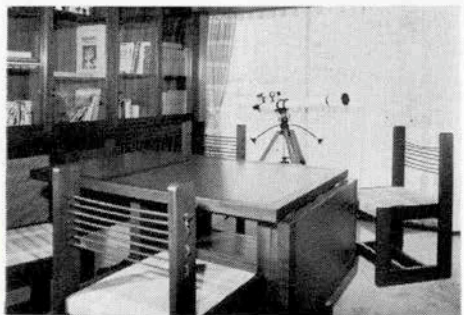
入船株式会社

神戸市灘区友田町五丁目二二

電話八五一三一九一（代）

★つくりつけ本棚・学習机

入船の家具造りの特徴は最初から住宅の設計におりこまれたビルトイン・ファニチャー（つくりつけ家具）ができるということ。住宅・事務所・店舗などのトータルインテリアの創造に総合的に取り組み各空間に応じた設計から施工までのすべてのプロセスに全力投入している。今、特に力を入れているのは店舗づくり。若くてセンスあふれるデザイナーたちが熱心に働く様子は気持ちがいい。総合的視野から空間づくりができるので写真のように子供部屋でも一味違う落ちつきと統一観が見える。



モダンな感覚が生きる学習机を中心とした子供部屋。

江戸屋△福井▽

神戸市兵庫区塚本通二丁目一
一
本店 〇五七五—三二〇
東店 〇五七六—〇五四

★ご婚礼家具

明治15年。三宮できつねの嫁入り福井商店として和家具製造販売店を商い、東京へ修業に出た創立者が、江戸指物の技を修めて帰神有馬道で店を構え、戦後、現在地に「江戸屋」を創り、手づくりによる繊細で優美な家具づくりに徹して来た店。この桐のご婚礼家具は湿気の多い日本の風土の中で息づいてきた生活の知恵の結集。湿気に気づくと目をふくらませ、乾燥し始めるとともに元にもどるのでタンス内部の湿り気がなく江戸屋の作品は現代的なセンスもそして職人芸の粋が感じられる。



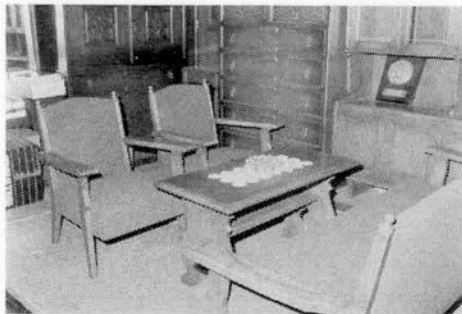
オリジナル家具は能から題を。

河南工芸社

神戸市生田区三宮町二丁目一八〇
〇三三一—二九九二・七五一四

★応接セット

現社長河南忠雄さんの叔父さんが家具づくりを始め、父の河南忠吉さんが明治40年に家具店を開いたというから神戸では最も古い家具店のひとつである。現社長は、戦後ヨーロッパに渡り、デザインの研究、資料の収集などを中心に家具づくりを視察。最近はいんテリアを総合的に扱う仕事も多くなってきたが、つまりそれは家具を室内全体のインテリアとして総合的に考えることからによる。すぐれた手づくりの技術とよいデザイン、古い伝統と信用とによってオリジナル家具が誕生するわけだ。



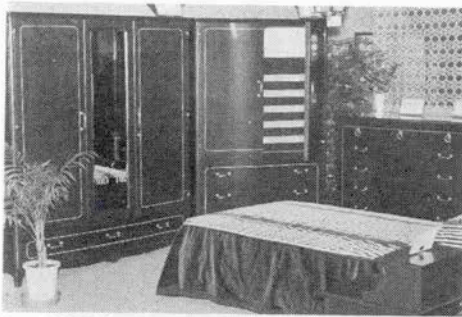
すぐれた手づくりの技術が生きるオリジナル応接セット。

たかねや

神戸市垂水区多聞町小東山
神戸木工センター内
〇七八四—五三三五

★ベッドとタンスのセット

垂水の神戸木工センターに工場をもつ株式会社たかねやも手造りでオリジナルなデザインの洋家具を手がけている。商品は東京の西武をはじめ、百貨店や専門店に卸されているが、神戸ではお目にかかれないのが残念。写真はベッドを中心に洋ダンスや和ダンスなどを配したセットで、高級な桜材を使ったもの。マホガニー仕上げを施された表面の赤味かった色合いとすっきりしたデザインが美しく、金具や扉の形にも細かい心配りがされている。



高級な桜材を使ったベッドとタンスのセット。

永田良介商店

神戸市生田区三宮町一 大丸前

☎三九一—三三七七

★ご婚礼家具

神戸に育って106年。欧風家具の永田良介商店は、神戸の草分け的存在である。ナラの木を扱って自然の木目の美しさを表わし、飽きのこないデザインで手作りりで仕上げている。和室にも洋室にもピッタリ落ち着く雰囲気を使い手にほのぼのとした暖かみを伝える。ご婚礼家具は三点セットの他に最近ではユニットの組み立て式が加わって機能が若い女性に人気。ユニットは特に鏡もはめ込まれて使いやすい。良い家具を多少お値段は張っても一点一点計画的に自分のものにしてほしいもの。



106年の伝統につちかわれた婚礼家具セット。

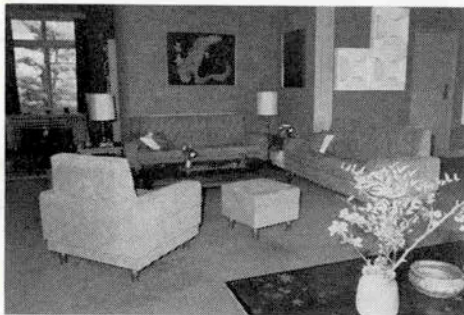
佐々木家具店

神戸市生田区中山手通二一八

☎二四一—三三三二

★応接セット

この店の特徴は中山手という場所柄もあって8割が外人客で占められている。それもヨーロッパ系の人が多い。外国人の場合インテリアに対する知識が深く、はっきりしたイメージをもって家具注文するので、日頃から欧州家具の研究に余念がない。ユニークなのは日本式座敷家具。例えば火鉢型テーブルや長火鉢を、最近どの外人宅からも注文をうけるようだ。お客さまの意向に合わせて、オリジナルな家具を一品ずついいねいに仕上げる姿勢は創業60年の歴史から育くまれているようだ。



北欧ムード漂うシンプルな応接5点セット。

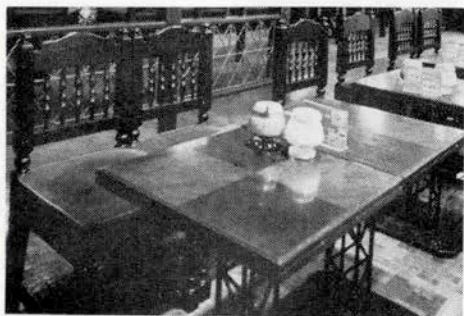
神戸日建

神戸市葺合区御幸通三二二〇

☎二五一—三五二五

★店舗装備・設計・施工

“心の通う店創り”がモットーの店舗装備のプロフェッショナル神戸日建。「商業空間と居住空間とは自ずからその目的が異なり、従来からのインテリアの意義づけからはみ出るものが多くあります。それらの問題を解決していくことが商業施設に携わる私たちの使命といえます」と小野原社長は語る。写真のテーブルと椅子はオリジナルで、テーブルの足は異型鉄筋。コンクリートの下地素材であったのを表に押し出してデザイン化した。新しいオリジナリティーの開発に余念がない。



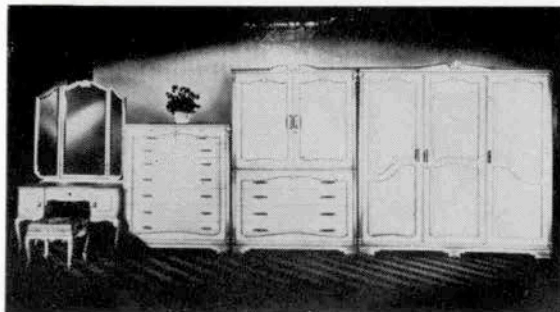
くつろぎの空間を演出（UCC カフェメルカード）

メーブル不二屋

生田区三宮町三一五 トア・ロー
ド・雲三九一―〇五三五

★ご婚礼家具

創業明治8年。ミナト神戸の豊富な国際感覚に支えられた手づくり家具は、ハイカラの伝統をうけついで、シックな英国調スタイルのクラシックファニチャーが得意。この一品は、初代の吉田友一社長が昭和42年に、まだ日本では当時目新しいワードロップの、品のいいピンク色のアンチック仕上げにデザインしたフランス調ご婚礼家具。夢のあるエレガントな姿と機能的なトータル性もそなえた豪華な傑作。374万円。



文明開化の100年前から港神戸に

丸和建築

デザインルーム

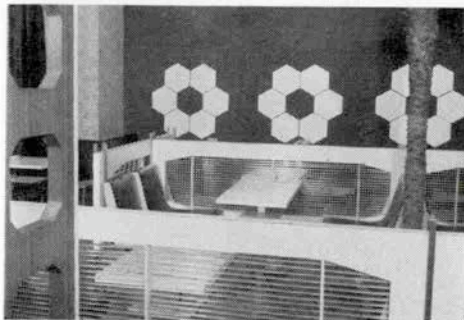
神戸市生田区北長狭通五丁目二二
番三四一―五三八〇

★店舗インテリア

これまでに設計施工した店舗数は主なものだけでも三百以上になる。生田区海岸通りにある喫茶店「マリーン」もその一つ。

設計の基本は機能導線と客の誘導導線をどうするかにある。当然のことながら、その店が繁栄することを第一に考え、店の従業員が動きやすく、客が入りやすい店づくりを展開する。

たとえば、「マリーン」のテーブル、椅子、壁面の装飾などすべてが「丸和オリジナル」。二十名の熟練した家具職人と店舗専門職人がそれを支えている。



個性ある店づくりを展開する丸和オリジナル（マリーン）

丸尾工作所

神戸市貴合区旭通五一四
番二二―二〇九六

★和ダンス

国鉄三宮駅東の高架下にある丸尾工作所は創業65年。神戸でも最も古い洋家具商のひとつで、手造りの神戸家具の良さを今も大事に伝えている。婚礼家具の別注に応じるほか、室内装飾、店舗設計にも力を入れており、ネクタイ専門店、店の元町バザーなど、手がけた店は多い。写真のクラシック調の和ダンスは婚礼家具セットのうちの一品で、洋ダンス、整理ダンス、鏡台など全て同じデザインの意匠が施されている。ナラ材で、手彫りの木彫はさすがに豪華。四点で一二〇万円というから安くはないがあとあとサイドボードや吊り戸棚など、いつでも同じデザインのもので注文でき、一品一品買い足していけるのが楽しみである。



クラシック調の和ダンス

太陽はともだち



顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123

新 発 売

ROSEMONDE ロズモンド

高級ワイン

カリフォルニア産レーズン

甘みをおさえたクリームを

まろやかな手づくりのソフトサブレで

サンドしてみました



¥750 ¥1,500

北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市灘区熊内町1-8(南蛮美術館東隣)TEL 221-1164

■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸アパート・元町店